

執筆者 住中 光夫  
システムリサーチ&  
コンサルティング株式会社  
代表取締役



マイクロソフト社のセミナーでは、多数の講師陣の中から3回連続で受講者より1の評価を受けている。企業研修、書籍の執筆など、Officeソフトにかかわる多方面で活躍中。www.suminaka.comも要チェック!

特別連載

## 知って納得! 第5回

# Office活用セミナー

マイクロソフト社セミナーで大人気! Office指南のカリスマ・住中先生が、パソコンをビジネスに活かすための心構えをわかりやすく解説する!!

## データ分析は、実務現場に立つ人が行なうてこそ効果がある!

データの裏に現場が見える人がデータ分析を行なうことの意義

企業のサーバには、何千、何万、何十万件の販売などのデータが入っています。このデータをいろんな角度から分析して実務に役立たせることが必要です。データ分析というとすぐに難しい統計学や一部の専門家の仕事と思いがちですが、実は実務現場の方々が行なうてこそ効果があるのです。

「データ」とは事実の羅列、「情報」とは見るにより行動が起らせるものと定義しましょう。ここに、千行の商品在庫一覧表があつたとします。ひとつひとつ商品の在庫点数を見ること、つまり事実の確認はできません。しかし、パラパラと見るだけでは何も手が打てません。この在庫一覧表は、事実の羅列の「データ」に過ぎないのです。

このデータをあれこれ分析して、50行の在庫品一覧表を作成します。この表は、すぐに

在庫処分という手が打てますから「情報」といえるでしょう。誰が「データ」を「情報」に変えるかという点、「データ」の裏に現場が見える人」が行ないます。

たとえば前述した例では、在庫データであれば、商品名を見た時に、その商品の荷姿や倉庫の場所が思いつく人がデータ分析を行ないます。また、顧客データを見た時に、その顧客のビルや窓口の人の顔が浮かぶ人、営業担当者がデータ分析を行ないます。

つまり、データ分析は、現場の人が行なうてこそ具体的な手が打て、効果があがるのです。

しかし、実務現場の多くの人は誰もそんなことをやらないし、その方法もツールも知りません。その悩みをいとも簡単に解決してくれるのが、Excelのピボットテーブル機能です。ピボットテーブルを利用すれば、今日からすぐに実務データ分析ができるのです。

## ピボットテーブルがデータ分析を現実化する

ピボットテーブルは、Excelのデータベース機能のひとつで、何千、何万、何十万という膨大な数のデータを分析できる優れたツールです。

実務データ分析の基本は、何千、何万行の頭1行に見出しが入り繰り返しのデータがある「データリスト形式の表」を、縦軸横軸に見出しがあり中に数字がある、L型マトリクス形式の表にし、そして「グラフ」を作成して、そのグラフから動向を分析し判断することです。このデータ分析の基本の機能を持っているのが、ピボットテーブルなのです。

ピボットテーブル機能は、膨大な数のデータを、自由にいろいろなL型マトリクス形式に集計します。また、その縦軸や横軸を入れ替えたり、項目の追加をしたり、抽出の条件付けを行なうことができます。このような分析手法を「スライス&ダイス分析」と呼びます。そして、大項目から中項目へ、そして詳細データへとドリルダウン分析を行なうことができます。

このピボットテーブルは、データリスト形式の表さえあれば誰でもすぐに、実務分析を行なえるのです。

データリスト形式のデータは、サーバに入っている各種のデータそのものです。まずは、データを取り出し、実務に役立つ分析を始めてみましょう。

### データ分析の流れ

